

東北労働金庫「ろうきん地域貢献ファンド」 2007年度

Aコース（企画助成コース） 助成事業報告書

2008年 4月 30日

とくていひえいりかつどうほうじんちやいるどらいんみやぎ 団体名（ふりがな） 特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ
事業名 「子どもを守るボランティア」に必要な研修事業
こばやし じゅんこ 連絡担当者お名前（ふりがな） 小林 純子

助成金を使って行った事業について、記述してください。
 （活動の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください）

○子どもを守るボランティアに必要な研修のための講座開催 全10回

	大テーマ	小テーマ	実施日	講師	参加数
1	子どもの環境を知る	学校の子どもたち	9/29 (土)	チャイルドラインみやぎ 代表理事 小林純子	のべ 46
2	子どもの環境を知る	いじめの実態 不登校について	9/29 (土)	精神科医 林みづ穂	
3	子どもの環境を知る	児童虐待	9/29 (土)	精神科医・宮城教育大学教授 関口博久	
4	子どもとの接し方	カウンセリングの基礎	9/29 (土)	応用心理士 斎藤永子	
5	子どもの環境を知る	軽度発達障害について	9/30 (日)	宮城教育大学教授 渡邊徹	のべ 46
6	子どもの環境を知る	学校の子どもたち	9/30 (日)	養護教諭 北村志津枝	
7	子どもの環境を知る	子どもと性環境 ①子どもを取り巻く性の問題と基礎知識 ②思春期の性の悩み・子どもの問題行動と暴力	10/6 (日)	思春期保健相談員・助産師 ハーティ仙台代表 八幡悦子	のべ 61
8	子どもとの接し方	ロールプレイ	10/6 (日)	応用心理士 斎藤永子	
9	子どもの権利の学習	子どもの権利・少年をとりまく法について	10/13 (土)	弁護士 草場裕之	のべ 48
10		子どもを守るネットワーク 様々な相談窓口まとめ	10/13 (土)	チャイルドラインみやぎ 代表理事 小林純子	

○事業報告会

予定にはなかったが、講座には参加できなかったが、概要を知りたいなどの要望があったため、講座全体を通して見えてきたことなどを、報告会の形で実施した。

○参加対象者

学校ボランティア 民生委員児童委員 など のべ191人

○内容

「子どもを守るボランティア」に必要な研修事業

子どもに関するボランティアを行なう人のために、「子どもの権利」「子ども虐待」「いじめ」「不登校」など、子どもを守るときに必要な視点を獲得する学習を行なった。また、子どもから相談されたとき、問題を抱える子どもに出会ったときにつなぐ先の情報を学んだ。さらに実際に子どもと接する時の注意点などをロールプレイ形式で学んだ。

今回の助成事業には、どのような形で、複数の団体の協働やボランティアの参加がありましたか？
具体的に記述してください（人数、関わりの内容、参加者の感想など）

<広報>

チラシ発送・配布などの協力

東北HIVコミュニケーションズ CAPみやぎ フリースクール煌 フリースクール西の平

特定非営利活動法人 せんだいファミリーサポート・ネットワーク

特定非営利活動法人 MIYAGI 子どもネットワーク

特定非営利活動法人 冒険遊び場-せんだい・みやぎネットワーク

仙台市 宮城県

財) せんだい男女共同参画財団

<当日参加者所属団体のプロフィール>

参加者の希望で所属の学校などは記載できないが、学校の見守り、帰宅の際の巡視、学校の相談員など、様々なボランティア団体、PTAに所属している人が参加。のべ191人

<参加者の感想>

○善意でやっていることでも、様々なリスクを伴うことがわかった。

○学習援助ボランティアは校長などが面接をするが、防犯巡視のボランティアなどは、地域の方が善意でやってくれるので、面接するなどにはできない。しかし、今回のように事件が起こるようであればどうすればよいのだろうか。

○先生などは子どもが一番信頼している人であるのに、最近は子どもの写真をネット上に掲載する教師などもあり許せない。どうすればこのような人を排除できるだろうか。

○おとなは子どもに対して、かわいいと思ってあたまをなでたりすることがあるが、子どもがそれをいやだと思っていればやめるべきだと思う。しかし、子どもはなかなか大人に向かってそれを言えない。

○子どもの話を黙って聞くことがこれほど難しいとは思わなかった。

○今まで自分の子どもに対して、聞くことどころか子どもが言ってほしいことと全然違うことをいってしまっていたことに気づいた。これからはもっと子どもの話を聞こうと思う。

○巡視をしている間に子どもに声をかけることもできなくなりそうでこわい。日本はいつからこんな国になったのだろう。

○先日パトロール中に子どもから話しかけてもらってうれしかった。いろいろ考えるとこんなこともできなくなるかと思うとさびしい。

○ユニフォームの管理などについて学校に話してみようと思う。とても参考になる話だった。

○学校へボランティアに行っているが、いじめられている子がいて気になっている。先生に話そうかどうしようか迷ったが、今度話を聞いてあげようと思う。

○このよう名話をPTAで聞きたい、聞かせたい。

<情報交換>

チャイルドライン青森準備会 子どもと大人の危機管理教育研究所 青森たすけっこの会

青森1パーセントクラブ

東北福祉大学

<その他>

事業の継続中に、青森のチャイルドライン設立の会があり、代表の小林が参加した。基調講演講師の危機管理アドバイザー(子どもと大人の危機管理教育研究所)国崎信江さん、青森たすけっこの会の方たちと交流ができ、今後も子どもを守るボランティア育成に協力し合おうという事になった。

子どもが巻き込まれる事件が相次ぎ、さらに、仙台市では学校の地域見守りボランティアが子どもへ性暴力をふるったことなどが報じられたため、民間の関心は高かったが、行政や学校の反応があまりなかったのは残念だった。しかし、このような講座を実施していることから、代表の小林は、日本PTA全国協議会東北ブロック研究大会第3分科会「子どもの安全と安心を守る環境づくりをめざして」の基調講演講師として招かれ、9月7日に後援、また、仙台市企画市民局市民生活部市民生活課から声がかかり、10月に安全安心街づくりフォーラムパネルディスカッション「情報化社会がもたらす光と影 ～今、子供たちが危ない～」にパネリストとして参加した。今回の事業の成果をもとに発言した。

この2回の講演と、事業の成果をもとに、予定外だったが報告会を実施した。年度末であったこともあり、参加人数はさほど多くなかったが、熱心に聞きたいいただき、質疑も活発に行なわれた。

事業実施の目的を話しているうちに、東北福祉大学ボランティアセンターとの連携が進み、「ヒヤリハット集」の作成に協力した。

当初の事業目的はどの程度達成できましたか

● 申請書に記載した事業目的

予防を目指す講座を実施していて、講座の実施と言う点では十分に達成できたが、事業の継続中に、子どもが犠牲になる事件や事故が多発し、このような講座がもっと早く実施されていたら犠牲者を減らすことができたかもしれないと、やりきれない思いを抱くことも多かった。

子どもを守る現場の方の参加が多かったのも、きっと生かしていただいていることと思う。いずれ追跡調査をしてみたい。

● 目的の達成度（自己評価）

事業目標は十分達成できた。講座一つ一つが充実していた。しかし、回数が多かったため、全講座参加したくても難しかったという声も聞こえている。

この講座の大きな目的は、ボランティア個人が問題を抱えたときにひとりで悩まず、相談してほしいということであった。参加者には個別相談も受け付けることを伝えていたが、それほどニーズはなかった。講座の中で十分話されたためかと思われる。しかし、受講中の学生が友人のことで相談に訪れ、講座講師に相談して、大きな事件にならずにすんだという事があった。他の受講生に対しても、実際につながる先があるということをお伝えされたことは良かったと思う。今後困難に出会ったときに思い出してもらえらることと思う。

● 達成できない部分があった場合には、考えられる原因をお書きください。

事業は達成できたが、団体の事務担当者が途中で交代したために、中間の連絡が滞ってしまったこと、経過の記録が不足していたために、報告書の作成が遅くなったことなどが反省点だった。

今回の事業は、団体の活動や、地域社会にどのような成果・効果がありましたか

対象を限定して募集したことによって、参加者の感想にあったように、学習したことを地域に持ち帰って即実践してくれた受講者が多かったことで、間接的にはあるが地域社会に貢献できたと思われる。

団体としては、これまでは、電話の受け手ボランティア養成講座のみ行っていたが、受講生たちの声から、この講座をもっと広い意味で子どもに関わる人材育成講座と位置づけたことで、今後の発展性が見えてきた。また、普段の養成講座は事務局が取り仕切っているが、今回の講座は理事も交代で受付などを担当し、体制が強化できた。

チャイルドラインボランティアの中に、地域でもボランティアをしている人がたくさんいることがわかり、今後の連携の糸口がつかめた。

今回の助成事業を行って見えてきた課題は何ですか

また、その課題解決に向けて必要なものは何ですか

伝えたいことはたくさんあるが、実際に会場に足を運んでくれる人はごくわずかであるため、事業の成果報告の会を3月に行った。新聞で広報なども行ったが、やはり参加はそれほど多くなかった。今後は冊子を作成して配布するなどを考えたいが、印刷費の問題などが大きな課題である。

今回の事業を、今後どのように展開していきますか

また、その際に必要なものは何ですか

事業継続中に、受講中の学生が友人のことで相談に訪れ、講座講師に相談して、大きな事件にならずにすんだという事があった。この学生が講座を受けていなかったら、相談できる先も分からず、大きな事件になってしまったかもしれない。相談先は数多くあるが、それが周知されていないことが問題であることを再確認し、青少年への相談先の広報を強化したいと思う。

今回の事業の成果をもとに、2008年度5月からは、子どもサポーターズ養成講座とリニューアルして講座を実施することになった。

助成金がなくなると有料で実施しなければならず、資金調達が課題である。また、有料となると、学校などで配布してもらえないという状況も発生する。何とかこの問題をクリアして実施していきたい。

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

収入の部

項目	金額（円）	内 訳	助成金充当額
ろうきん地域貢献ファンド助成金	300,000		300,000
自己資金	217,367		
合計	517,367		

※収入と支出の合計は必ず合せてください。

※助成金以外の自己資金についても詳しく記載して下さい。

支出の部

項目	金額（円）	内 訳	助成金充当額
謝金	100,000	講師謝金 10,000×10回	100,000
人件費	167,400	資料作成・事務連絡・当日活動など活動費 600円×279時間	60,000
会場費	44,260	市民会館使用料 32,700 付帯設備使用料 8,100	44,260
交通費	13,590	荷物運搬駐車料金など	13,590
郵送代	19,490	切手代 @80×169 @140×42 @90×1	19,490
消耗品	72,627	用紙・封筒・印刷インク・宛名ラベルなど	62,660
合計	517,367		300,000

※支出のうち、人件費は支出総額の2割以内に収めること。

※支出の項目は、できるだけ詳しく記載してください。

<ろうきん>へのメッセージをどうぞ。

チャイルドラインで5年間子どもの声を聞き続けてきましたが、被害にあっている子どもたちはなかなかそれをほかの人に話す事ができません。話してもどうしようもない、話すすと大事になる、はずかしい、自分が弱いからといわれる、まぜ拒否しなかったかと責められる、親に心配をかける、などが話せない理由です。

話してスッキリする子もいますが、中には解決する必要のあることもたくさんあります。それをチャイルドラインだけで行うことは難しいので、他団体や他機関との連携で行う必要があります。

事業実施中も、子どもが加害者になったり被害者になったりする例が相次ぎました。どちらの立場になっても不幸なことです。子どもを被害者にも加害者にもしないために、もっと大人たちはすべきことがたくさんあると思います。

行政は広く浅く公共事業を行っていますが、NPOは対象が少数であっても緊急性の高い事業を迅速に行うことができます。しかし、資金に余裕がないと着手できません。

その点、「ろうきん」の地域貢献ファンドは、私たちにとってとても心強い味方です。助成をいただいたことを心より感謝申し上げます。

今回の事業は、即効性よりは、時間をかけて浸透していく効果を狙っていたのですが、研修開催中に相談を受けたことで、大きな事件になることを防ぐことができました。このことだけでも費用効果としては十分だったといえるほどのことでした。当事者の方からも感謝の言葉をいただいておりますのでお伝えいたします。

今後とも、草の根の活動にお力添えをよろしくお願い申し上げます。